

埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News



基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するよう努めます。

使 命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

基本方針：上記の理念に従って患者中心主義（patient-centered）を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

患者さんの権利：当センターは、全ての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- (1) ひとりひとりが大切にされる権利 (2) 安心して質の高い医療を受ける権利 (3) ご自身の希望を述べる権利
(4) 納得できるまで説明を聞く権利 (5) 医療内容をご自身で決める権利 (6) プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利：(1) ひとりの人間として尊重される権利

- (2) 質の高いおもいやりのある安心安全な医療を受ける権利
(3) 年齢や理解度に応じた十分な説明と情報提供を受ける権利
*子どもさんとご家族が、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで説明を受ける権利
(4) ご自身で希望を述べる権利
*子どもさんとご家族が、ご自身の精神的、文化的、社会的、倫理的な問題について要望する権利
(5) 自己決定の権利
*子どもさんとご家族が、自らの意思に基づいて医療内容を選択あるいは拒否する権利
(6) プライバシーを守られる権利

埼玉医科大学国際医療センター地域医療連携懇話会が開催されました

第93回・94回・95回地域医療連携懇話会を開催しました。暫く感染予防の関係でWEB配信のみでの開催でしたが、第93回より従来からの会場参加も加えたハイブリッド形式で開催しました。

第93回は当院神経内科・脳卒中内科加藤先生より『脳卒中後てんかんのマネジメント』についての講演と、須田先生より『脳卒中再発予防と認知症診療の up to date：多職種で力を合わせて、健康長寿の延伸を目指す』というテーマの講演をいただきました。

第94回は当院支持医療科高橋先生より『国際医療センターと地域医療との緩和連携をもう一度考える』というテーマの講演と、広島大学大学院医系科学研究科・循環器内科学講師北川先生より『心不全包括ケアネットワークの構築と活用：広島モデルの取り組み』についてのご講演をラウンドディスカッションを交えて行いました。



【第93回地域医療連携懇話会】



【第94回地域医療連携懇話会】

第95回は当院リハビリテーション科内田先生より『心臓リハビリテーションの概要』についてのご講演と、高橋理学療法士より『心臓リハビリテーションの実施』についてのご講演、吉田看護師より『早期リハ導入や退院（転院）準備に向けての注意点』についてご講演頂きました。

それぞれ80名前後のご参加をいただきました。お忙しい中ご参加いただいた皆様、またコメントを頂きました医療機関の皆様、ありがとうございました。次回の開催につきましては、順次ご案内いたします。



【第95回地域医療連携懇話会】

オンラインセカンドオピニオンを実施しています

当院では、遠方にお住まいの方でもお気軽にご相談いただけるよう、PC、スマートフォン、タブレットを使用したビデオ通話「ZOOM」によるオンラインセカンドオピニオンを行っております。詳しくは当院ホームページをご覧ください。

【お申込み方法】 ①当院ホームページ『オンラインセカンドオピニオン申込みフォーム』よりご入力
(右記QRコードからも可)

②地域医療連携室へお電話
(TEL : 042-984-4108)

※予約日は申込日から2週間以上先が対象です。

※オンラインセカンドオピニオンが可能か判断をしてから、地域医療連携室よりご連絡いたします。その後紹介状や申込書類の郵送をお願いしています。



オンラインセカンドオピニオン
申込みフォーム

【料 金】 30分まで 22,000円 (税込)
30分超1時間まで 44,000円 (税込)
※保険適応ではございません。

【お 支 払 い】 クレジットカード決済 (一括払いのみ)

アルツハイマー病新薬 レカネマブ（レケンビ®）の専門外来開設のお知らせ

脳卒中内科 加藤 裕司

令和5年12月20日にアルツハイマー病新薬であるレカネマブ（レケンビ®）の製造販売がわが国でも承認されました。当院脳卒中内科では、同薬剤の適応判断と使用できる体制を整えております。以下、当院でレカネマブ治療を希望される患者さんの受診予約からの流れを説明させていただきます。なお初診を含む以下のレカネマブ診療に係る来院は原則ご家族など介護者の同伴が必須となりますので、ご注意ください。

1. 対象となりうる患者さん

- ①認知症（あるいは認知機能低下）の程度が軽いこと
⇒ MMSE 22点以上の患者さんが対象となります。
- ②脳内に出血性病変が無い、または少ないこと
⇒ 頭部MRI検査で判定します。
- ③アミロイドβが脳内に確実に蓄積していること
⇒ 当院では原則アミロイドPETを用いて判定します。



①～③の全ての基準を満たした方は新薬を使える可能性があります。上記の規定に従うと、実際に投与対象となる方は限定されるのが実情です。現在、近隣医療機関の脳神経内科・脳神経外科で適応判断のうえ、ご紹介いただく形をとっていますが、適応があるようであれば（①だけはご確認を頂きますと幸いです）、地域医療連携室を介して当院に直接紹介いただくことも可能です。専門的な診察や検査の枠に制限があり、適応判断まで4週間前後かかることが想定されます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。【地域医療連携室 TEL：042-984-4433】

2. 実際の治療

薬は2週間に1回、1時間程度の点滴で投与されます。初回は1泊2日の入院での投与、2回目以降は外来での投与となります。治療は原則18ヶ月継続して行われます。定期的に副作用の確認のため診察、頭部MRI検査を受ける必要があります。副作用としては、脳浮腫・脳出血、アレルギー反応などです。重篤な副作用が出現する場合は、投薬を中止します。

3. 特記事項

レカネマブは、アルツハイマー病の進行を抑制させる可能性がありますが、改善させる薬ではありません。また、薬価が比較的高額ですが、高額療養費制度の利用が可能です。

4. 受診の方法

レカネマブ投与を検討される患者さんがいましたら、予約取得時にその旨をお伝えいただき、脳卒中内科 水曜午前の須田智、月曜午前、第1・3金曜日午前の加藤裕司のいずれかの外来枠を予約ください。

新任診療部長・教授のご紹介

新任診療部長のご挨拶



かじ まさひと
加地 正人

診療科：救命救急科 教授
専門分野：救急医療、外傷診療、災害医療、熱傷、集中治療

2023年7月より埼玉医科大学国際医療センターの救命救急センター長、Acute Care Surgery & Shock Trauma Center センター長を拝命しました。

専門分野は、上記に示しましたが三次救急を主として救急重症患者の受け入れを行っています。

特に、多施設で対応困難となる重症外傷、急性腹症を得意としています。

また、地域柄、医療へのアクセスに時間を要し、緊急度が高いと想定される症例に関してはドクターカーの出場より早い医療アクセスに傾注しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

新任診療部長のご挨拶



しろたけ すぐる
城武 卓

診療科：泌尿器腫瘍科 教授
専門分野：泌尿器腫瘍学、腹腔鏡手術

2024年3月1日付で埼玉医科大学国際医療センター泌尿器腫瘍科教授、4月1日付で同科診療部長を拝命いたしました。

泌尿器腫瘍領域はロボット支援手術をはじめ免疫チェックポイント阻害剤の登場やゲノム検査に基づく個別化医療の導入など革新的な進歩を遂げている分野のひとつです。当科は、尿路、生殖器そして後腹膜に発生する広範な領域の悪性腫瘍を対象としています。

当該領域においてお困りの症例がございましたら、どうぞご紹介下さい。私たちは患者さんやご家族にとって最善の医療を提供すべく尽力いたす所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

新任診療部長のご挨拶



ふくしま たかし
福島 敬

診療科：小児腫瘍科 准教授
専門分野：小児総合診療、小児がんの集学的治療・遺伝子診療

宜しくお願ひいたします。2024年4月1日に当科診療部長を引き継ぎました。
*何科に紹介すべきか悩ましい小児を含め、随時、当科にご連絡ください。

*当科は小児科専門医で構成され、特にがんや血液難病の診療、造血細胞移植が専門です。

*包括的がんセンター、救命救急センターや心臓病センターの診療科・職種と協力します。

*陽子線治療など県外とも連携し、治験・先進医療等の情報も患者さんに積極的に提供します。

*AYA世代（15歳から39歳）の用語が普及するにつれて小児の年齢区分は不明瞭化し、成人の化学療法を当科が担当する機会が増えています。

新任診療部長のご挨拶



うちだ のぞむ
内田 望

診療科：支持医療科 教授
専門分野：緩和ケア、プライマリケア、在宅医療、地域医療

2024年2月1日付で緩和医療科（支持医療科）教授、同年4月1日付で診療部長を拝命いたしました。長らく高知県内各地と埼玉県小鹿野町で地域医療に携わってきた中で、家族を含む緩和ケアや全人的医療の重要性に気づかされました。癌末期の患者さんに限らず、早期からの「つらい」「痛い」「苦しい」を少しでも取り除く医療、そして最期まで支える医療を常に意識して診療に従事しています。そのためには院内外における連携が欠かせません。地域の医療機関の皆様とともに、地域に密着した早期からの緩和ケアの普及に努めてまいります。ご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新任診療部長のご挨拶



やすだ しげみつ
安田 重光

診療科：内分泌・糖尿病内科 准教授
専門分野：内分泌疾患、糖尿病

令和6年1月1日より当院に赴任いたしました安田重光と申します。この度、4月1日より内分泌内科・糖尿病内科の診療部長に就任いたしました。当科では、当院に入院中の糖尿病患者様や、内分泌疾患（おもにバセドウ病や橋本病などの甲状腺機能異常、下垂体機能低下症、副腎皮質機能低下症など）に罹患している患者様の診療を行っております。とくに周術期や化学療法中の糖尿病患者様の血糖管理は、原疾患の治療とともに非常に重要なものであり、患者様の命を守るべく尽力いたします。これまで診療部長であった栗原進教授も引き続き当科での診療を継続されます。栗原教授のご指導の下で日々精進いたしますので、今後とも内分泌内科・糖尿病内科をよろしくよろしくお願い申し上げます。

新任診療部長のご挨拶



ほんま たくま
本間 琢

診療科：病理診断科 教授
専門分野：神経病理

2024年4月1日付で国際医療センター病理診断科 診療部長を拝命いたしました。私は日本大学医学部を卒業後、病理医として研鑽を積み、2020年より当院で病理診断業務に従事して参りました。

病理診断はすべての臨床科からの検体が対象となりますが、当科では消化器系、泌尿生殖器系、呼吸器系のメジャーな領域はもとより、リンパ・造血器系、皮膚、中枢神経系といった領域を専門とする病理医も揃え、広い領域をカバーできる体制をとっています。地域の先生方と接することはあまりありませんが、医療を支える一員として、病理診断の質の維持・向上のため研鑽に努めてまいります。ご指導の程よろしくお願いいたします。

新任教授のご挨拶



さかた やすあき
坂田 康彰

診療科：歯科口腔外科 教授
専門分野：顎変形症 先天奇形 口腔ケア

2004年3月に、大学病院（毛呂）歯科口腔外科に入職し、2014年4月より当院歯科口腔外科に准教授として異動となり、2024年4月1日付けで、教授の任を拝命することとなりました。当院では、主に口腔ケア業務を通じて、癌治療の支持療法としての役割を担っております。また、他科の治療遂行上必要な口腔外科的処置も行っておりますが、あくまで、他科主治医からの依頼をもとに行うシステムとなっており、主科担当医の頭越しに直接ご依頼をお受けすることができないため、口腔外科疾患などあれば、まずは当院主科担当医にご相談いただくと幸いです。また、歯科併設のない施設で口腔ケアのシステムの導入をご検討されているようでしたら、お手伝いできるかと思っておりますのでご連絡ください。

新任教授のご挨拶



いしだ まゆみ
石田 真弓

診療科：精神腫瘍科 教授（臨床心理士・公認心理師）
専門分野：精神腫瘍学、臨床心理学、死生学

2023年6月1日付で埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授を拝命いたしました。私は2007年の開院年度より精神腫瘍科での診療・研究に従事し、心理職としてがん患者さんの精神心理学的な問題、ご家族（家族外来）・ご遺族（遺族外来）の診察にも取り組んでいます。

また、当科では「死生学勉強会」を月1回、これまでに165回開催しており、オンラインも活用しながら、今後も続けてまいります。引き続き、地域の医療福祉にかかわる先生方と学び、さまざまな場面で地域に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

当院は予約制です 下記の方法でご予約ください

① 患者さんからの電話予約

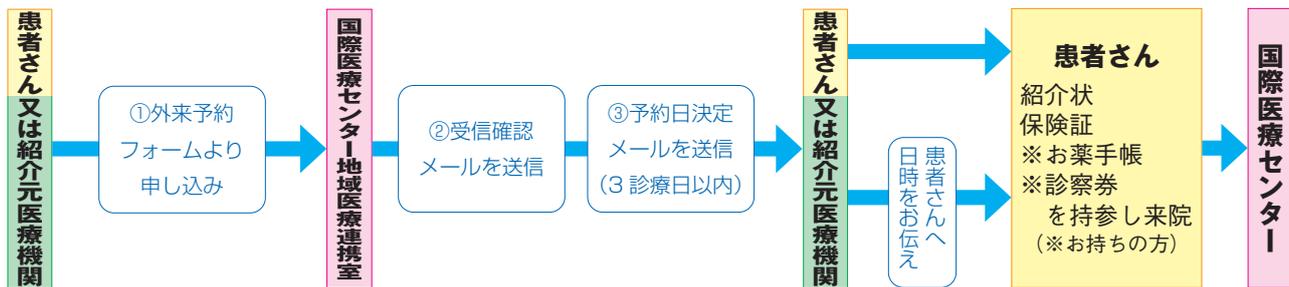


② 医療機関からの電話予約



③ インターネットからの予約（初診専用）

紹介状は患者さんへお渡しください。



Organization Accredited
by Joint Commission International



インターネット
予約入力フォームは
こちらから



埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News（第28号）

編集・発行：埼玉医科大学国際医療センター
地域医療連携室

編集責任者：眞下 由美
発行責任者：佐伯 俊昭

住 所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

TEL：042-984-4433

FAX：042-984-4740

発行日：2024年6月1日

URL：https://www.international.saitama-med.ac.jp